

ちば里山新聞

(第70号)
編集発行 NPO法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
☎ 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

活動団体支援金制度が復活しました！

9月19日(木)に開催された特定非営利活動法人ちば里山センター理事会において、「ちば里山センター里山活動団体支援金制度」を復活させ、今年度分についてはさっそく募集をすることを決定しました。

支援金制度については、かつて平成25~27年度の3年間にわたり、1団体2万円を上限に実施しましたが、里山センターの財政が窮屈になり中断した経緯があります。今回はこの制度を大幅に改定のうえ復活させたものですが、使い勝手がよく事務負担が少ない制度の骨格は残しています。

新たな支援金制度の概要は以下のとおりです。

- 目的：里山活動に関すること(飲食、遊興にかかる費目を除く)
- 上限：1団体につき年間3万円(正会員に限る)
- 採択方法：期日までに申請した団体から理事会で決定する
- 支払方法：精算払い(後払い)
- 事務手続：簡潔に記載できる従来の様式に準ずる

近日中に募集要領と今年度の申請期日をメール等でお知らせします。申請書の記載例も数例添付しますので、それらを参考にぜひ利用してください。



令和6年第2回理事会の様子

◆里山センターの活性化

今年度はちば里山センターの活性化を目指して、情報発信の強化、支援金制度の復活、会員からの個別要望への対応強化などを理事会で決議し、順次実行に移しています。具体的には、ちば里山新聞は67号(3月末)から隔月に発行しており、70号も9月末を目途に編集作業をしています。今後も隔月発行を継続するためには、会員各位の協力が欠かせません、取材依頼、原稿依頼に際しては、積極的な協力をお願いします。

支援金制度の復活については、ちば里山センターの財政事情が一時の苦境から抜け出せたことが大きな要因です。各種の研修会、調査依頼、イベント実施に際してのフィールド提供、スタッフ支援など、会員各位からのお力添えが、支援金制度の復活につながりました。あらためて感謝申し上げます。

会員からの個別要望への対応強化については、ちば里山センターの人材ネットワークを活かした会員サポートをこれまで以上に強化しています。今年度もこれまでに、要望に応じた個別研修の実施、イベントへの講師の派遣、調査依頼の仲介、用具類の貸し出しなどに取り組み成果を上げています。

◆ちば里山イノベーションハブ

昨年発足した「ちば里山イノベーションハブ(CS1)」の利活用も進んでおり、事務局である千葉県緑化推進委員会を中心に、ちば里山センター、千葉県森林インストラクター会、千葉県自然観察指導員協議会、樹の生命を守る会、千葉県冒険遊び場ネットワークの6団体が協力して、教育の森の実態調査、小学校向け森林環境教育の実践などいくつかのテーマに力を合わせて取り組んでいます。

皆さんからの要望を受けた企画として、「リスクマネジメントと保険研修会」(令和6年10月31日)や「ちばの森林環境教育シンポジウム」(令和7年1月18日)なども予定されており、里山活動における課題(人材の確保・育成、里山の活用、財源の確保等)の解決に向けて、CS1のパートナーシップによる取組をさらに活用していきましょう。

「里山活動の魅力を発信する～次世代に繋ぐために～」第2回ちば里山カレッジ

9月28日船橋市高根台公民館講堂で、ちば里山センター主催令和6年度第2回里山カレッジ「里山活動の魅力を発信する～次世代につなぐために～」を開催しました。参加者は51人でした。

午前10時、ちば里山センター伊藤副理事長から挨拶のあと、東京学芸大学 Explayground 推進機構研究員

の木俣知大氏が「里山とのふれあいで拓くSDGs時代の里山活動」のテーマで講演しました。自然保育認定・認証制度は平成27年、鳥取県で自然保育認証制度として始まり令和5年には千葉県で26市町で106団体が自然環境保育認証制度されたと報告しました。自然保育については子どもの発達への教育的効果が確認され、平成26年7月幼稚園施設整備指針で園庭の配置について重要性が指摘され、平成29年3月には幼稚園教育要領で自然とのふれあい環境が重要とされたところ。このため長野県では、園庭、緑化・裏山整備等のモデル事業をスタートし、上田女子短期大学付属幼稚園では「やまばプロジェクト」として信州型自然保育をスタートさせた。運動場を中心とした園庭で、遊びは遊具中心といった保育環境から、園庭は樹林化、芝生化、水辺づくり等や裏山の森林整備へ時代は移行していると結んだ。



「里山活動の魅力発信・・・」の木俣講師

続いて4つの事例発表では里山ボランティア流山の岡本千穂さんは、流山市内の里山活動に異なる世代が集まっている様子をレポート。幅広い年齢層が集まると、思ったほど作業が進まないという難点もある。環境を次世代に引き継ぐため、世代の持つ知識や経験を生かし活動を続けていきたいとまとめた。



里山ボランティア流山の岡本さん

2つ目の事例は子育てステーションニッセの北之迫紘子さんが森林整備と木育活動について話した。子育て支援の観点から木育を通して新たなコミュニティづくりと持続可能な森づくりを進めると述べた。

3つ目の事例はコワーキングスペースFLATを営む花泉裕一郎さん。コミュニティ・ハブとしてスペースを提供し緩やかなネットワークをもとにしたプラットフォームを作り、月に2、3回のペースで各種イベント・ワークショップなどを行う一方で、FLATこどもクラブ

の活動で森に近い形での業務が行われている。コミュニティマネージャーの重要性からSNSでの発信としてインスタ「まつど森ものがたり」を運用している。

続いて行々林せせらぎの森の佐々木史子さんから「里山にふれあいはじめて」のテーマでアンケート結果を使いながら、里山活動の魅力を紐解いた。「人柄の良さ」、「内容の多様さ」、「発信力がある」と三要素が上がり、活動継続では、自然に親しむ(80%)、里山の景観を守りたい(75%)、活動内容の多彩さ(70%)となりました。

午後のグループワーキングでは、参加者の自己紹介、地元団体の課題について発表がありました。「里山団体から幼稚園・保育園に呼びかける」、「里山ボランティア講座で実技は里山団体担当」、「里山活動の軽作業は子どもに任せる」、「作業と結果を明確にして分かりやすくする」などの意見が出されました。

総合討論ではSNSの利用について、過去のイベントレポートでイメージをわかせる工夫や、ボランティア同士で上下関係ができることは否定しないが、主体性を尊重する組織風土を大事にしたいと思うと結んだ。



子育てステーションニッセの北之迫さん

むつみの森にて「チェーンソー入門講座 / 基礎編」開催

9月21日(土)八千代市むつみの森で千葉県森林課主催「チェーンソー入門講座/基礎編」が開催され、受講者は20~70代と幅広く里山団体以外のチェーンソー未経験者も参加されていました。



講義中の質問に応える鶴見講師



杉丸太を使いチェーンソー実技講習

午前中、睦公民館にて鶴見講師による「チェーンソーの取り扱い方」について詳しく講義がありました。

午後からむつみの森に移動して4班に分かれて、それぞれ岡部塾受講者がサブ

講師につき、杉の丸太を利用して垂直平行切り、スパイクを使っての先廻し切り、元廻し切り、バーの上を使っての下切り、杉の丸太を立てての水平切りと受講生に徹底的に指導しまし

た。受講生で特に目立つのがチェーンソーバーの先が下がって水平に切れない事です。バーに水準器を載せて見るとか水平を他の人に見てもらい体で覚える必要があるようです。今回の受講生はチェーンソーを持つのが初めての人も2, 3人いましたがオドオドおっかなそうにしていたが、大半の受講生はたっぷり実技指導を受けて最後は達成感に満足の顔が見られました。皆様おつかれさまでした。



チェーンソー研修を終えて達成感の皆様

<<次回チェーンソー講習会の参加者募集中!>>

- ・第2回10月26日(土)9:30~15:30 袖ヶ浦市平川公民館富岡分館→きさらづ里山の会活動地
- ・第3回12月7日(土)9:30~15:30 袖ヶ浦市平川公民館富岡分館→きさらづ里山の会活動地

※申し込みはちば里山センターホームページより <http://chiba-satoyama.net/>

身近な森から生物多様性の森へ~今年も種集めを始めました~

今年から「千葉県由来の苗木育成プロジェクト」と位置づけて取り組むことになった多様な広葉樹苗づくりのための種採り、秋本番をむかえて、今年も本格的に始まりました。

今年は暑い日が続いくせいか、成熟が早めに進む樹種があります。その一方、予想よりも成っている果実が熟するのが遅い樹種があり、種採りのタイミングの難しさをあらためて感じています。また、樹種ごと、場所や木ごとに最適なタイミングは異なります。さらに、熟して落下した果実や種は、イノシシやサルとの競争にもなります。そのため、ヤマグリ、ヤマガキなどの実、コナラ、クヌギなどの種(ドングリ)をまだ青いうちに集め、陽にあてて熟するのを促しています。

その後、取りだした種を春まで保存するため、湿った砂などと混ぜて密閉します。この作業は千葉市都市緑化植物園の協力で植物園の中の作業場を借りて行っていますので、興味がある方はご協力下さい(ちば里山センターまで問い合わせください。)

最後に、会員の皆さんと協力して今年作り始めた広葉樹の苗木の一部を10月20日に幕張メッセで開催される「第29回 エコメッセ in ちば」で配りますので、是非遊びに来てください。



陽にあてて種の熟するのを促しています

里山じまん ⑰

酒々井里山フォーラム



酒々井里山フォーラムの皆様

日本で一番古い「町」酒々井町で2カ所を拠点とし20年以上里山活動を続けている団体です。

初めに紹介する拠点「西井戸」は印旛沼周辺に広がる田園地帯の一画、孝行息子が汲むと美酒に変わったと言

い伝えのある「井戸」の近くです。住宅地から杉林の斜面を下り田園を望むと訪れた皆さんは口々にホットする



自慢の樹齢300年ともいわれる山桜

次に紹介するのは町の南部「馬橋」の台地から続く谷津と周辺の竹林、杉林です。ちなみに著名なお酒「甲子」の酒造会社もこの大地の水を使っています。

ここでの自慢の一つは毎年行う「竹林大間伐会」です。順天堂大学の学生が運営している「NPO 法人 B-net 子供センター」と協業作業を行います。若い力を得て1日50本近くの竹を伐採し処理します。春には子供会の「タケノコ掘り」です。子供会とは「サツマイモ掘り」「ミニキャンプ」等助け合いながら実施しています。また、学生達は里山作業にも手を貸してくれています。

「馬橋」のもう一つの自慢は「親子ホタル観察会」です。コロナ禍の4年間中断していましたが昨年再開しました。農業の近代化の中で放置された谷津田に残された「平家ホタル」です。十数年前に生息を確認し散策路の整備を進めてきました。いまは東京から参加されるメンバーが中心となり整備しています。ここでは陸生のクロマドホタルも観察できます。団体の高齢化が進む中、若い学生達や地域外のメンバーの参画を得ながら里山を守り続けています。応援よろしくお願ひします。

酒々井里山フォーラム 大浦 聡

里山の風にゆられて ⑲



ハナトラノオ<花虎の尾>シソ科ハナトラノオ属

ハナトラノオは北アメリカ原産で日本では野生化して各地に広がっている。夏の終わりに優しいピンクの花の群れを見つけると、残暑の中ではつかの間の涼しさを感じさせてくれます。

写真・文 赤松義雄 R6.9.26 千葉市南生実町



つれづれごと

残暑にも耐え、遅れ咲きのヒガンバナを横目で愛でて、9月末の締め切りを目指して何とか間に合わせました◆これからはイベントの多い秋となりますが一一つ真剣にこなしていくことが肝要かと思ひます。(Y.A)

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>